

学校選択制に関する学校アンケート結果

平成22年9月実施

【アンケートの内容について】

目的

学校選択制についての各学校の意見や学校運営への影響等についてアンケートを実施し、今後の制度の在り方について検証する。

調査対象

市内全小中学校

回答数

29校(全体の100%)

問1 江別市では、平成17年度に学校選択制を導入し今年で6年目を迎えました。学校現場における学校選択制のメリット及びデメリットについて、どのようにお考えですか。

(1) メリット

【選択肢が広がる、魅力のある学校を選べる】18件

1	学校の特色等をもとに、保護者が教育環境を選ぶことができる。
2	選択制を利用し、より近い学校を選ぶことができ保護者にとってもありがたい制度だと思います
3	学校にとってのメリットよりも、保護者のニーズに応えた制度である
4	保護者の希望を叶えるという点ではよいと思う
5	子どもの学習環境を保護者が選ぶことができる
6	子どもたちが行きたいと思う学校や保護者が行かせたいと思う学校に行けるようになり就学に関して、保護者の責任が明確になる
7	学校の雰囲気や合うところに行くことができる。中学校では、部活を考慮した選択ができる
8	好きな学校を選ぶことができる
9	教育的ニーズに合う学校を選べるのはよいこと
10	小規模校でやりたい部活がない場合でも、選択制のおかげでできる
11	少年団活動や習い事をしている子が将来を夢見て、自分のやりたい部活動のある学校を選べる
12	児童の個性の伸長が期待できる環境を選択できる
13	自分の好きな校風や活動に合わせて学校を選べる
14	活動したい部活動のために、好きな学校を選ぶことができる
15	部活動において、校区の学校にやりたい部活動がない場合、ある学校を選ぶことができる
16	中学校においては、校区の中学校にないものを求める場合(例えば部活動)は選択制があると希望する学校に行きやすい。小学校では学校ごとにそれほど特色があるとは思えず、メリットは見当たらない
17	目的を持った生徒には良い制度、新たな人間関係の中で希望を持てる、教育的ニーズにあった学校を選べるなどのメリットがある
18	保護者、生徒の選択幅が広がり、生徒の希望する部活動への入部が可能となる

【人間関係のトラブル解消】 8 件

1	学校が変わることで前向きに登校できる場合がある
2	何らかの事情がある子どもへの対応として、この制度があると救いになっていると思う
3	友人関係で悩んでいる子がリセット（仕切り直し）できる
4	諸事情で校区の学校に行けない子が他の学校に行ける
5	小学校から人間関係のトラブルを抱えている生徒の場合に新しい人間関係をつくることができる
6	人間関係を著しく崩してしまった子が、その関係をリセットするためには良い機会である
7	友人関係等、人間関係をうまく築けない生徒を救うことができる
8	不登校などで地域の学校に行きづらい生徒が、他の学校で元気になれる

【通学の面】 6 件

1	境界線近くに居住する児童にとって通学距離などを考慮し選択している
2	近隣に家を建てた時に転校しなくても良い
3	学区の境界際に居住している場合、隣の学校の方が近くて通いやすいということもある
4	自宅に近い学校に通学できるという事もあり、児童の負担軽減に役立っていることもある
5	校区の境界際のある家庭など、通学にかかる負担を軽減できる場合がある
6	通学距離など、家庭にとっては選択できる事は良い。それによって、学校への家庭からの不満等が解消される

【学校、保護者の変化】 3 件

1	特色ある学校づくりの教職員の意識化
2	児童、保護者が望む「学んでみたい学校像」を考えることができる
3	学校は、他校と比較されることを意識して、よりよい学校づくりを目指そうとする

【その他】 7 件

1	学校現場においては特にない
2	学校の活性化、保護者や地域の方の関心の高まり
3	教育の自由という観点から良い
4	学校の教育活動への理解が校区外にも広がる
5	学校の特徴や雰囲気を知った上で選択するので、保護者の理解を得やすい
6	学校適正配置を目指し、学校を統合する手段となる
7	魅力ある学校づくりの好機とすることができる。また、部活動等の目標を持った子どもたちが入学してくることは、デメリットの面も併せ持つが、メリットとも言える

(2) デメリット

【通学上の問題】18件

1	登下校時の安全確保や集団下校時の対応が難しい。
2	緊急時の下校連絡及び保護者迎いの待機対応
3	通学の安全確保に対する不安
4	通学の距離があり、登校を渋る児童がいた。低学年にとっては、距離の負担が大きい
5	児童の通学上の安全性
6	危機管理、特に集団下校などの対応について、学校だけでは十分にできない面がある
7	集団下校などの時に心配
8	校区外からの登校により、緊急時の安全が確保できない
9	新入生の下校時及び集団下校訓練時等で親の迎えが遅れ、児童が待っていることもある
10	校区を越えて来ることで、登下校などで問題がある
11	学校体制や登下校時の安全管理等について危惧される
12	登下校での安全管理に不安がある
13	入学当初に確認された通学方法について曖昧になり、児童の安全面で不安が生じる場合がある
14	通学距離が長くなるため、生徒や保護者にとって負担がかかり、防犯上の問題が広範囲にわたる
15	通学に時間を要し、特に冬期間の交通手段の確保が必要
16	生徒の通学の安全を考えると、安易に校区外の学校に行かせるべきではない。自転車で通学している場合、その家庭に至るまでを、安全確保の指導・点検に努めたら、現在の職員数でカバーできるとは考えられない
17	通学距離が長いので、部活動のある中学校では下校時に辺りが暗くなるので心配
18	通学が大変

【学校間格差の拡大】14件

1	部活などで一部の学校に集中する懸念がある
2	選択された学校に子どもが集中しすぎることや、一方で選択されなかった学校では子どもの数が大幅に減ってしまうため、学校活動に支障が出る
3	過熱化すると学校間の格差が生まれる
4	偏りが見られ、特に小規模校にとっては影響が大きい
5	小規模校では、児童数・生徒数の減少に拍車がかかる
6	学校間格差のような保護者の意識が出て来る
7	学力格差ができそうで、危機感を感じる
8	学校間競争が起きかねない
9	生徒数が偏り、学校間格差が広がる恐れがある
10	部活動のためだけに、生徒の流入、流出が左右され、種目によって強豪とされる学校への希望生徒の偏重が見られる
11	学校間で生徒数が大幅に異動し、学級減、学級増となり、学校運営に支障をきたす
12	交通の不便なところにある学校には、外の学区から生徒が入ってくることは望めない。小さな規模の学校では生徒が外に出て行き、ますます小規模になる。江北地区では、この制度が導入される時、地域対象の説明会で、地域住民から上記のような指摘が出されたが、市教委は、小さな規模を求めてくる生徒もいると言っていた。しかし、現実には、地域住民からの指摘どおりになった。市教委は見通しに誤りがあったことを認めるべき

13	江北中学校のように生徒数減少に拍車がかかる
14	小規模校は、益々生徒数が減少する

【地域とのつながりの希薄化】 12件

1	放課後の交友関係が近所の子ども同士ではなくなるので、行動範囲が広がることになり、指導が難しい。
2	小規模校の児童生徒（特に生徒）が大中規模の学校を選択し、地域から学校がなくなる
3	地域で子育てをする事ができない。放課後、友達と遊ぶ機会が減少する
4	児童と居住する地域との関わり
5	下校後、近所の友人との交流がなかなか深まらず、地域としてのつながりや人間関係が希薄になる
6	地域と違う学校に通うことになるので、地域行事に参加しても知り合いが少なく馴染みにくい
7	校区外通学の子は、自宅近くに学級の友だちがいないために孤立してしまう
8	帰宅してからの遊びについても、少し困ると思う
9	学校と地域との一体感が、選択制の子どもが増加すればするほど醸成しづらい
10	地域の学校としての性格が薄くなる
11	下校後の友人関係をつくるのが難しい
12	地域コミュニティの崩壊を促しかねない

【学校運営上の問題】 8件

1	1年生の入学の手続きが、煩雑になっている
2	校区としての取組が厳しくなる
3	入学者数によってクラス数に変動があり、次年度の計画を立てるのが大変なので、学校としても非常にやりづらい
4	生徒数の減少をまねき、学級数・教員数も減り、学校経営に支障をきたす場合もある
5	学校間の引継ぎが煩雑になる
6	校区内から生徒が流出していく学校では学級数、部活、教員数など、様々な面で難しい状況を抱える
7	次年度の学級数が不明確となり、僅少差による届出の場合、期限付教諭の対応を余儀なくされる
8	人数が微妙な時の学級編成に影響が出る

【指導上の問題】 5件

1	学校選択で入学した児童が居住地区で問題行動を起こした場合、広域化し、地域情報収集など難しい面もある
2	家庭訪問（年度当初や緊急時の）や欠席時のおたより配布などで担任教師の負担が増えてしまう
3	郊外生活面で、校区内外の指導がしづらい
4	現状としては、中学校で開設されている部活動が目的で選択する生徒が多く、部活動の指導者が充実されていないとむしろ運営指導が難しくなる
5	生徒指導が校区内生徒と校区外生徒で区別して指導しなければいけない

【その他】 6件

1	デメリットを克服するには保護者の理解と協力が必要だが、保護者の意識が必ずしも高いとは言えず、その理解と協力を得ることが難しい。
2	校区内に幼稚園が無い学校は、児童数の増加が見込めない（幼稚園のつながりで他校へ入学させるケースが非常に多いため）
3	子どもの数が少なくなりそうだということで、隣接している学校に新1年生が流れていくのは、もったいないと思います。親は、学校が大きい方がいいと思っている人もいる
4	周囲から何かある人なのではという目で見られてしまう
5	部活動重視で選択をする生徒が多く、本来の学校の選択制の意義や中体連の意義からはなれている
6	現状は、部活動のための学校選択制度になっている面が多々ある。無理な通学や保護者の過剰な期待、部活動中心の学校生活等、部活動の加熱が心配される。入学後でも、部活動を理由とした転校が許容されるといった一部の誤ったイメージにつながっている部分があるのではないかと

問2 選択できる学校の範囲を今の隣接校方式から、範囲を「広げた方が良い」という一部保護者の声がありますが、そのことについてどのようにお考えですか。

【賛成、どちらかという賛成】 5件

1	保護者にとっては、選択範囲が広がることはいいことだと思う。学校としてはデメリット面が解消されれば、いいと思う
2	希望する学校の選択肢が広がるので、保護者の意志を尊重するべきではないか
3	広げても、メリット・デメリットにはかわりがないので、広げてもかまわない
4	自由でよいと思う
5	登下校に支障がなければ、様々な可能性が広がって良いと思う

【反対、どちらかという反対】 29件

1	範囲を広げるメリットよりもデメリットの増大が懸念される。
2	学校間格差の増大や学校のブランド化が懸念される
3	徒歩で通学できる範囲が原則だと思うので、現状でよい
4	特に小学校においては地域と一体となって教育活動を推進することが重要であることから、子どもが居住地から遠く離れた学校へ通うことは望ましいことではない
5	児童を地域で育てること、登下校の安全面、下校後の子どもの遊びなどを考えると、隣接校方式のままでよい
6	児童の通学上の危険性がさらに高まる恐れがある
7	子どもは地域で育てられると思うので、範囲を広げることに反対
8	地域との接点が一層なくなり、地域も学校に目を向けなくなる
9	通学する子どもの負担になる
10	学校にかたよりが出る可能性があるので、広げるのはやめた方がいい
11	教員の家庭訪問区域が広くなり、当該担任の負担が増す
12	児童の登下校時の安全確認することに困難性が増す
13	地域の学校の空洞化を招きかねないので、今のままでよい
14	安全管理の面からも範囲を広げることが適当ではない
15	登下校の安全面で不安なので、範囲を広げなくてもよい
16	登下校時の安全確保の観点からは課題があるので、隣接校だけでよい
17	地域学習をする際に、別地域の児童がいると難しい

18	放課後の活動ができなかったり、遠距離だと不審者等で危ない
19	登下校の安全の確保という点から、通学範囲を広げることは望ましくない
20	通学費がかかることや通学時の安全面の問題、部活動により帰宅時間が遅くなる
21	遠距離の通学をすることは、子どもの生活上の配慮から好ましくない
22	緊急で集団下校とかいう場合の対応など考えると、どうなのかと思う
23	学校が選択される理由は、殆ど全てと言ってよいほど部活動のためなので、学校現場にとって現状とそれほど差異はない。学校間の格差がますます広がるので反対
24	学校選択制の目的とその成果を検証するまでは、広げないほうが良い
25	自治会等は、地域の学校とつながりをもって、学校とともに活動をしている。その点からさらに広げることは望ましくない
26	通学に多くの時間がかかり、子供がかわいそうです。絶対隣接校でやめておくべき。学校の人気・不人気、噂で生徒数の増減が年毎に極端になります。絶対反対です
27	選択範囲を広げた場合、生徒指導上の困難性が増すことが心配される
28	通学が大変なので、隣接校のほうがいい。広げることによるメリットが分からない
29	どのような理由で範囲を広げたいのかが問題である。慎重に扱うべきと考える

問3 現在は、選択できる学年は翌年度小学校あるいは中学校に入学する新1年生ですが、「他の学年でも選択したい」という児童生徒と保護者の意見もあります。このことについてご意見をお聞かせ下さい。

【賛成、どちらかという賛成】8件

1	学級数に変動を生じない中での実施であれば良い
2	「選択制」を推進するのであれば認めてもよいのでは
3	学校としては、転校手続きと同様であり、特に問題ない
4	現行の制度で児童や保護者の負担をしっかりフォローできれば可能だと思う
5	児童生徒と保護者の要望があるのならいいのでは
6	他の学年でも良いと思う
7	どの学年どの時期でも選択をさせてよい
8	各家庭でそれぞれ色々なケースがあるので、途中でも転校できる様にしても良いと思う。ただあまりに頻繁に転校するのは難しいので、転校できる条件は必要だと思う

【反対、どちらかという反対】24件

1	安易な理由による転校の増加が懸念される
2	必要に応じて転校手続きにより校区外の通学が可能であることから、学校選択制である必要はない。
3	毎年度全学年の学級編制に影響することは、学校経営にも大きな影響が生じる
4	児童生徒の異動が多いと学校の落ち着きがなくなるので、現状でよい。
5	選択時に慎重に判断してもらうためには、他の学年では選択できないようにしておいた方がよい
6	このままでよい
7	児童、生徒が意欲を持って学校生活を送れることに繋がる
8	就学期間中の学校選択はいかかなものかと思う。特別な場合だが教育的な配慮を認めた校区外通学などの制度を利用してもらうことで十分なのではないか
9	転出、転入が頻繁になると学校が落ち着かず、混乱することも多いので、今のままがいい
10	出入りが多いと子どもたちが落ち着いて学習に取り組めなくなる可能性があるので反対

11	絶対にやめた方が良い。親の気分で転出入されては困るし、子どもにとっても良いことではない
12	常に転出入があり人数の変動があると、学年・学級経営上いろいろな問題がおこってくるので適当ではない
13	現状のままでよい
14	毎年、児童生徒や保護者に学校選択を問うことについては、そこまでする必要はない
15	際限なく転出入が起こり、学校が混乱することが考えられる。また、児童の「生きる力」(粘り強く取り組む。困難を自らの力で乗り越える。)を育むことにはつながらない
16	進級するたびに学級編成をする可能性もあり、生徒の増減により、学級数や教員配置についても問題を生じる
17	中学校は子どもが揺れ動く時期だが、そういう時期だからこそ中学校3年間、同じ学校、同じ仲間を過ごすべきだと思う
18	安易な選択を考える、生徒・保護者が増えて現場が混乱するので反対
19	必要なし
20	これを認めると、何か気に入らないことがあると、すぐ転校するという短絡的な行動をとる家庭が出てくることが考えられる。はたして、それが子どもにとって本当によいことなのか、教育的見地から慎重に考えるべき。一部の声があるからといって、当初のやり方を変えるべきでない。このような意見が出ることは、導入時にも考えられていたはず。その時に十分検討されているべき内容なので、今さら変えなくてよい
21	学校では6年間あるいは3年間を見通した教育活動を行っている。もし毎年選択可能になれば、安易な転校も考えられる。学校選択のタイミングを増やすべきではない
22	混乱をまねくのみと考える
23	進級する学年が、僅少差の場合に学級編成の見通しが立たない
24	どのような理由からなのかが問題である。もし、部活動が理由であるとすれば、それで転校するといったことは、行き過ぎであり、義務教育の中学生としてはそくわない

問4 学校選択制の導入により、「特色ある学校づくり」あるいは「地域一体型・学校の顔づくり事業」との関連で、これらを進めようという教職員の意識が高まったかどうか、ご意見をお聞かせ下さい。

【高まった、どちらかというが高まった】2件

1	他校の取り組み状況を意識するようになってきており、自校の教員も「特色ある学校づくり」に向け努力している
2	江別市はとても学校教育に熱心に取り組んでいると思うので、意識も高まったのではないかと

【高まってない、どちらかというが高まってない】25件

1	学校は学校選択制の有無に関わらず、地域や保護者との連携を大切にしながら、特色ある学校づくりを通して、子どもたちの確かな学力と豊かな心、たくましい体の育成を目指している
2	選択制と特色づくりは直接結びついていないと思えず、職員も意識していない
3	「学校の顔づくり事業」の一環として取り組んでいる学習であるということが、教職員にも代々引き継がれてきている
4	学校選択制と「地域一体型・学校の顔づくり事業」推進の意識とはあまり関係ない
5	「選択制のために」という意識の高まりは感じられない
6	あまり変わらない
7	学校選択制との関連からは判断を下しにくい
8	特色ある学校づくりは、選択制によって高まったというよりは、そもそも学校は地域と一体となった教育を進める必要があるという意識によるところが大きいのではないかと感じています。選択制が学校の競争意識を高める目的で行われるとすれば、それは教育になじまない面があるのではないかと思います
9	学校選択制の導入との関連は特に意識していない
10	学校選択制とはあまり関係ない

11	教職員の意識が高まるまでには至っていない
12	特に変化なし
13	特に学校選択制との関連ではなく、学校をさらに良くしたいとの思いである
14	特色ある学校（特に小規模校）づくりの意欲を高めるものには、なっていない
15	「特色ある学校作り」は、脈々と息づいてきた校風や伝統、校長の教育方針や教職員の必要感から学校全体が一丸となって取り組みを継続してきた結果によって生まれるものなので、学校選択制とは何ら関係性がない
16	特に高まったとは感じない
17	そんなに大きく変わってはいない
18	「特色ある学校づくり」は、地域の特性や実態に合わせて進めてきた。学校選択制はそのことと相反しており、導入によってその地域の学校という意識に混乱も見られる
19	全く高まらない。そもそも特色を高めようとしても、そういう人材を集めるための人事権の裁量が管理職に与えられていない
20	高まっていない
21	学校選択制と「特色ある学校づくり」「地域一体型・学校の顔づくり事業」とは関連ありません。むしろ、学校選択制により、区域外通学を選択した子どもたちと地域との一体感は薄れたのではないのでしょうか
22	教職員は選択制にかかわらず、これまでと同様に特色ある学校づくりに努めている
23	振り回されており、意欲はむしろ下降している
24	「学校の顔づくり事業」への意識は年々高まっているが、学校選択制の導入との関連があるのかどうかといえ、どちらともいえない
25	選択制の学校説明会では、部活動に関わることしか質問がでなかった。そのような状況の中では、設問のような意識は高まらないのではないか

問5 学校選択制の導入により、保護者の学校運営に対する関心が高まったかどうかについて、感想、ご意見等がありましたらお聞かせ下さい。

【高まった、どちらかというが高まった】5件

1	学校見学に来る保護者が増え、学校がオープンになった。それにより学校はいつも見られているという緊張感を持つようになった
2	学校運営への関心は高くなっている
3	学校運営への関心・意識は高まっていると感じるが、他校と比べる傾向も感じられる
4	学校の様子・雰囲気に対する関心は高くなったと思う
5	学校運営に対する関心が高まってきていると感じる

【高まってない、分からない】20件

1	地域の学校を大切にしようということで学校へ関心を寄せる保護者は多い。学校選択制導入によるものかどうかは判断できない
2	特に感じられません
3	特に感じられない
4	特に大きな変化はない
5	保護者の学校の活動（PTA活動含む）への参画意識が低い。学校を選択することで、学校に任せたいという気持ちがあるように感じる
6	保護者の関心が高まるまでには至っていない
7	PTAの役員をさけたり、参観日に来ないなどの問題点が多くなってきている
8	特に高まっていない

9	特に学校選択制の導入によって高まったとは思われない
10	学校選択制の導入により高まったとは考えられない
11	保護者や地域住民が「地域の学校」として愛着を持ち、普段から関心を持っている地域なので、学校選択制導入による学校運営への関心の変化は特に感じられない
12	特に高まったとは感じない
13	保護者の学校の教育活動に対する関心の高まりを感じることはできるが、そのことが学校選択制の導入と関連しているかは把握できない
14	特に関心が高まったとは思えない
15	保護者の関心は、部活動に関してのみ（あるいは、それでしか差異は見出せない）であり、全般的な意味での教育の質を問う学校運営ではないので、それはない
16	特にない
17	さまざまな学校の噂からそれと比較する形で高まったかもしれないが、元々は噂から出たものなので、その関心が学校に対して持ってほしい関心といえるかどうかは不明
18	選択をしようと考えた一部の保護者だけは関心が高まったかもしれないが、江別市全体としては何ら変わっていない
19	「保護者の学校運営に対する関心」は年々高まっていると思うが、選択制の導入によるとは一概に言えない。ただ、他の学校を気軽に見てみたいと思う保護者は増えている
20	特に高まったように感じないが、正確なところは捉えられない

問6 学校選択制の導入により、どのような変化（教職員、児童生徒、保護者など）が見られたかご自由にお書き下さい。

1	本校（中学校）では、学校選択により生徒の人数が増え、複式を解消できている
2	選択制によって子どもの数が減る学校においては、その原因解明と改善が図られていると思う
3	他校の教育実践に目を向けるようになってきた
4	特に大きな変化が見られたわけではないが、学校や教育について考える機会にはなった
5	他校への意識は高まったように思う
6	自分の学校の特色を意識する等、所属する学校への関心が高まったように思う
7	デメリットが大きく感じられるようになってきた
8	地域に遊ぶ友達のいない児童の話をよく聞く。子どもは地域で育つということに意識が行かないまま選択制を使っている保護者が多い。選択制のねらいはどこにあるのか全く見えてこないし、ねらいに沿った選択の仕方をするよう保護者に理解してもらおう働きかけもされていない
9	一斉公開日や学校説明会など業務が増える
10	教職員の人事異動に関わり、入学式を終えてから急ぎょ転校する場合（部活動担当教師の異動に伴い）があった
11	部活動が盛んな学校に集まる傾向があり、戦力格差が生じる
12	江北地区においては地域住民の間に軋轢を生み、導入したことは失敗であると考えている。統合の噂が先行し、多くの生徒が三中を選んだ結果、生徒数・職員数が減り、教育活動に大きな支障が出た。江北中学校では生徒数が減り、学級減になり、教職員数も減りました。在校生や卒業生の保護者の学校選択制に対する不信感には、根強いものがあります
13	主に「部活動」のことで選択制を使う保護者が多くなり、入学者数に偏りが起こり、学級数や教職員数にまで影響が出ている
14	保護者にとっては良かったと思う。教職員にとっては、現状以上に進めば学校の優劣や競争の問題も出てくるのではないか
15	特にありません
16	「選択制の導入により」という変化は感じられない
17	中学校などは部活の補強などもあっていいかと思うが、小学校にとってはあまり変化はない
18	教職員としては、特に大きな変化はない

19	かわらない
20	特に変化はないし、それにとらわれて変化したくない
21	小学校に関しては、特に感じない
22	児童生徒の話や保護者との話の中で、本人の「友人がその学校に通うから」や「いじめ、荒れが少ない」「学校の教育活動」に魅力を感じるといった理由をあげる話が多くなってきている
23	特にない
24	大きな変化はない

問7 学校のPRなど情報発信の部分で学校側の努力課題あるいは市教委に何か要望がありましたら、お聞かせ下さい。

【学校側の努力課題】6件

1	学校選択制の有無に関わらず、開かれた学校を目指し、これからも学校の情報発信に努めていく
2	学校の情報発信については、地域自治会との連携のもと学校だよりの配布などを行い、適宜進めているところではあるが、なお一層の工夫・努力が必要である
3	現在の情報発信は、質的・量的に十分に思う
4	学校としては、学校だより、学年だよりやホームページを活用して、学校の教育方針や内容、生徒の様子等家庭や地域に発信しているので、家庭や地域がいかにかその情報を取得するか(学校から出る文書が保護者に渡らない。ホームページを見ていない)
5	学校選択制にかかわらず、開かれた学校としてより情報発信に努める
6	ホームページを充実させたい

【市教委へ要望】17件

1	市としてもっと学校の取り組みを紹介することがあってもよいと思う。
2	学校選択制説明会を市で一括して開催するか、学校説明会の参加者把握を市で行ってほしい。その上で希望があれば各学校に行き説明を聞く、とい流れはどうか。学校で時間を設定し、準備をしても参加者がいない時もある。入学説明会と勘違いしてくる人もいる。
3	小規模校の特色を理解した上で、もっと市教委にPRして欲しい
4	もっと学校のそれぞれの良さを積極的にPRできるようにしてもらいたい。学校案内ポスター掲示を自由に行えるようにするとか。幼稚園や保育園にポスター掲示をお願いしても断られることがありました
5	市教委においては、広報誌などでもっと多くの情報を流していただけるとありがたい
6	デメリットをしっかりと伝えるべき
7	本校の特色を保護者の方に説明する場として活用していきたいので、引き続き取り組みをお願いしたい
8	選択制のねらいの啓蒙がなされていない
9	学校選択制をやめてほしい
10	HPによる情報発信に係わる予算、人的な部分の支援を市教委にお願いしたい
11	ホームページの上手な活用が求められると思います。そのための専任の人員配置があるとすばらしい
12	そもそも本来的な意味での学校運営の視点(学校教育の質等)で学校が選択されている訳ではないので、PRや学校側の課題を考えること自体、既に的外れである
13	現在やっている情報発信は、本当に市民が学校選択に参加できるものであるか、客観的に見直すべき
14	江別市は学校数が多いので大変ですが、他市では、各学校だよりを全校に1部ずつ配布していました。せめて、小中学校別でも、他校の様子が分かればよいと思います
15	要望にすべて応えることができないことを何かの形で出すべき。もっと保護者の協力や理解を求めることが必要では? 「すべて学校が何とかせよ」という現状を何とかしてほしい。特に、部活動の顧問は自らの家庭を犠牲にして活動を行っている
16	校舎営繕にご尽力いただきたい
17	保護者が何を求めて学校選択制を活用しようとしているか、という実態を把握して下さい

問8 市では、学校適正配置基本計画を策定し、統廃合に向けた取り組みを進めています
が、学校選択制の導入により小規模校における児童生徒数の減少に拍車がかかる事
態も考えられます。このことについて、どのようにお考えですか。

【やむを得ない】13件

1	児童生徒数の減少やその他の事情から、統廃合を含めた学校の適正配置は必要と考える
2	将来を見通した「学校適正配置基本計画」に則り、統廃合を計画的に進めていく原則を変えないことが大事である。その上で、将来を見通し、保護者は学校選択を考えており、小規模校の児童生徒数の減少もやむを得ないと考える
3	学校選択制が保護者の多様な教育ニーズに対応する目的で実施されている。その上で、特色ある教育活動を行っている学校への入学を希望する児童・生徒がいるのが現状と理解している。学校選択制の導入により小規模校における児童生徒数の減少に拍車がかかるとの認識はありません
4	時代の流れで仕方がない
5	大賛成。大いに淘汰されるべき。効率も考えた運営を前提に
6	残念だが、少子化なので仕方がない
7	小規模校には、少人数ゆえのきめ細かい指導を受けられるというメリットと、多くの児童との交流が不足するというデメリットがある。小学校の場合、保護者は学校の選択にあたりその両面を意識することが考えられるから、小規模校であることが児童生徒数の減少に拍車をかける原因にはならないのではないだろうか。(中学校では、部活の問題が係わってくるので、この限りではない。)
8	道の財政などをみても、地域にとっては困るだろうが統廃合はやむを得ないと考える。スクールバスなどのソフト面でフォローするようにする
9	小規模校だから安心して通わせられるという話も聞くので、減少しても学校が成り立つような状態に市としてもっていければ良いのでは
10	小規模校の統廃合は仕方ない事だと思えます。ただ両校の良い所を残し、生徒が安全に通える状態にして欲しい
11	少子化を見据え、教育効果があがるための適切な学校規模による統廃合は必要不可欠だが、小規模校としての特徴ある教育活動を展開し、かつ需要があるなら、そういう学校も必要
12	やむをえない
13	特認校のように保護者が捉え、小規模の特性を求めて選択することがあれば、意義はあると思う

【問題である】16件

1	このことについては、本制度の導入時点で当然予想されたことだと思います。地域から学校が無くなるということは、地域にとっても児童生徒にとっても深刻な問題だと考えます
2	角山小中のことについては、何とか存続の方向で考えて欲しいと思います。小規模校の特性を生かし、地域の盆踊り大会・茶道など地域とのつながりを大切に学校づくりがなされています。また、市内唯一の小中併置校であり、9年間にわたり一貫教育のモデル校としても教育的価値のある学校だと考えます。生き生きと育つ子どもの姿がとてたくましく、すばらしい実践がされています。市でスクールバスを出すなどして小規模校を選択する例が増えるよう配慮してほしいです。学校が無くなる事は地域の衰退に拍車をかけるので慎重に議論していただきたい
3	より学校と地域との結びつきが希薄になることへの危惧がある
4	義務教育である以上、ある学校間に格差が広がらないよう、行政が学校を支援していくことも必要と考える
5	その通りだと感じます
6	適正配置という点に重点を置き、計画され取り組むことについてはいいが、減少に拍車がかかるのはよくない
7	小規模校はますます児童生徒数の減少に拍車がかかるのは当然。いいことではない
8	地域にとって学校の存在意味は大きなものがあり、学校選択制によって廃校となることは好ましいとは思えない。地域、保護者、教職員の考えを十分に尊重し、意見交換しながら進めていくべきだと考える
9	特色ある小規模校をなくすだけとしか考えられない。小規模校への配慮、(予算面、教職員増など)もっと手厚くするべきであり、それが、地域の学校を生かすこと、子どもが育つことにつながる
10	他の市でも新しい校舎、新しい施設の学校に生徒が集中したケースがあり、好ましくない
11	小規模化して学級としての教育機能や効果に疑問を持つ保護者が増えていけば、小規模校における児童生徒の減少に拍車がかかることは十分考えられる

12	統廃合の噂から子どもが流出することは、地域にとっても学校にとっても不幸な事である。学校選択制がない状況で、地域を含めて議論されるべき
13	このような事態も考えられるので、選択制は不必要なのではないかと思う
14	まさしく、その実態が起こっている。先にも書いたが、もともと地域住民はこのことを心配して意見を言ったが、市教委は何もしてこなかった。そして、その実態が本校で起こった。市教委は、これを教訓に何をすべきか考えるべき
15	そのようなことは十分予想できたはずで、その状況が生ずることを前提にスタートさせた制度だと認識しています。つまり、市としては、小規模校の統廃合をこの制度で推進する意図だと思っています
16	すでに拍車がかかっており、教科、部活動指導で支障をきたしている

【どちらとも言えない、その他】8件

1	学校選択制により必ずしも小規模校の児童生徒数が減少するとは言えないと思うが、適正配置計画の内容が学校選択に大きな影響を与えると考える
2	児童生徒数の偏りがでないよう取り組む必要があると思う。選択制と矛盾のないよう適切に運用してほしい
3	どちらともいえない。学校選択には保護者の願いがあり、学校存続には地域の願いがある
4	特別な理由がある時にのみ限定すべきである
5	学校適正配置も大事と思われるが、小規模校ならではの特色を生かした施策も必要である
6	特認校にあえて子どもを通わせたいという保護者もいれば、部活動の開設数や子どもに集団生活を体験させたいという保護者の願いもあり、一概には言えない
7	本来的に「学校教育の質」という視点で学校が選ばれる環境になれば、むしろ特色ある教育を行うことができる小規模校には“活路”はあると思う。しかし、現状の中学校において、そもそも「学校教育の質」の差異を明確にすることが正しいことなのだろうか
8	市の財政面を考えれば、学校の統廃合はプラスの要因だが、そのあおりを小規模校に被せてよいものかどうか。江北中の保護者の中には学校選択制の導入が地域の学校の閉校の引き金を引いたというやりきれなさを持つ方もいる

問9 今後の学校選択制のあり方について、何かご意見等があればお書き下さい。

1	メリットを生かすことは大切だと考えるが、そのためにデメリットを克服するには多くの知恵と労力が必要となる。また、さらなるメリットを生み出すことも同様と考える
2	地域で子どもを育てる、地域の学校という意識を保持するため隣接校方式でいいと思う
3	学校選択制と区域外通学との関連性を精査する必要がある
4	学校選択制がなくても、本当に学校を選択しなければならない児童生徒にとっては、「江別市立小学校及び中学校における区域外通学に関する取扱要綱」で対応できる
5	全市の傾向を教職員に知らせて欲しい
6	学級数が1・2名で変わるような時に近隣校を調整することはできないのか。委員会の方から情報を流すなどしていただければうまくいくのではないか
7	放課後、友だちとの交友関係が形成できない。学校選択制の対象を中学校に限定した方がよいと思う。小学校は、生活科や総合的な学習の時間で、自分たちの生活に密着した題材で学習する。児童にとって、価値ある学習にはならない
8	現在、選択制を利用してもともとの校区外の学校へ行った子どもに弟妹がいる場合、たとえば翌年度から制度がなくなると違う学校へ通うことになり、家庭においては非常に負担が多くなるし、また、PTA等の活動にも支障があります。学校選択制を見直す際には、上記のようなケースもあるので個々に適切な対応をお願いしたい
9	廃止した方がいい
10	中学校における部活動の有無、あるいは部活指導者の偏りによって選択されている実情が大きい。中学校の学力格差、校風により選択されている現状を早急に改善する必要がある
11	アメリカや東京で選択制による問題点が浮き彫りにというニュースを見ました。学校と家庭と地域がみんなで子どもの成長を見守れるように、従来の学区を大切にしていけるべき（選択はあくまで特別な措置と考えるべきでは）と思います
12	地域との結びつきを大切にするのか、学校選択を優先するのが曖昧である。効果を考えると再考する必要がある

13	保護者の方々にとって、よりよい学校選択制になるようにアンケート結果を生かしていただきたい
14	現状、特に選択制にて校区外に通学している児童・生徒が少なければ、制度そのものを見直してもよいのでは
15	選択制は必要ない。特別な理由がある時だけ認めればよい
16	子どもたちは、地域の中で育つ。放課後友達と公園で遊んだり、知り合いの近所の方々の見守りや声かけ等に支えられて育っていくことを、保護者にも理解させる必要がある。その上で、やむを得ない事情により選択制を使うという方向にしていかなないと、歯止めがかからなくなる。また、親・地域・学校の連携が求められているにも関わらず、関係が薄れていくことが予想され、教育活動がますます困難になってくる
17	義務教育は、どこの学校であっても同じように子どもたちの成長が保障されるということが基本であり、そのための条件整備こそ必要なのではないかと考える。学校選択制については、再度深く検討していくことが必要かと思う
18	学校選択制をする意義を感じない。自分の校区の学校へ行くのが良いと思う。そのために、江別市内の学校はどこを見ても愛着を持てるよう、教職員も意識を持ち全体で高めていかなければいけない
19	中学校では、部活選択などで魅力ある制度だとは思いますが、小学校においては、やはり地域の学校に通学するのが、地域と学校が協力していくためには大切なことだと感じます
20	全市に広げることと、校区外から通学する生徒には自転車通学を許可しても良いと思います
21	廃止すべき。小学生の段階から、それまでの友達と別れてでも別の学校を選んで良いという制度を、大人の方から提示するのはおかしい。自らどうしても学校を選びたいのであれば、多少痛みを感じても校区外通学や私立への進学を考えるべき。一部の学校や一時期の子どもにとっては良い制度かもしれないが、市全体や、その子にとって長い目で見た時の制度としては、かなり歪んだもの感じられる
22	「いい制度」ということであれば、もっと他市町村にも広がりを見せているはず。問題もあるから江別市だけに止まっているのではないか。学級減や増で教員の異動や元々校区から通っている子ども達への悪影響も出始めている。(今年度の大麻中と東中)そろそろ廃止を検討すべき時期になっていると感じる
23	学校のソフト的な部分ではなく、ハード的な部分(設備など)で、選択される方も多い。ハード的な部分はみな同じになるようにしてほしいと思います
24	近隣の学校だけではなく、江別市内で親が送迎もしくは本人が自分で通学できる範囲ならいいと思います。なぜなら学校によりある部活とない部活があり、強い部活に入部したいという意志があるから
25	「人気のある学校とない学校」というイメージに取られかねないこの制度。生徒が集まる学校にとってはメリットのある制度かもしれないが、そうでない学校にとっては、教員もモチベーションが下がり、残った子ども達への悪影響も懸念される。江別市全体の教育力アップには結びついてはいない
26	現状の公立校という枠組みの中で(教育の質の機会均等や一定水準での質の保証が担保されなければならない)、選択制をとるということ自体、大きな矛盾を抱える、ということであり、勢い、中学校では現状のように部活動のための学校選択になってしまうのは、自然の道理である。従って、本当に選択制に踏み込むのであれば、各々の学校で更に自由裁量が増えなければならないし、教育の質を競う環境が整わなければならない。しかし、これは、公教育にとって隘路である
27	現状では中途半端な取り組みと言わざるを得ず、結果として中途半端な成果しか挙げられない。管理職が特色ある学校づくりを推し進められるよう、人事権を大幅に委譲するか、それができなければ廃止の方向を考えたほうがよい
28	学校選択制の目的と実際どのようなメリットデメリットがあったのかをしっかりと検証し、今後について検討していくべき
29	文科省もいっているが、子どもを育てるのは「家庭」「学校」「地域社会」である。小中学生はまだ生活圏が小さいので、校区の地域とともに子どもを育てていくべき。自治会が校区外の隣接校と協力している例はありますか?地域、家庭とともに学校が教育活動を進めるには選択制はふさわしくない。どうしても学校を選びたい家庭は理由を明確にさせて、市教委が個別に判断すればよい
30	公立学校は私立学校と違います。教育の機会均等を考えると、学校選択制には疑問が残ります。区域外就学を求めるケースは「相当の理由」の弾力的運用で対応できると思います。また、学校の活性化は、校長をはじめとする教職員の資質の向上によるところが大きいです。それを、外部から変えようとするのは、今まで子どもたちのために使命感と誇りを持って教育に専念してきた教職員にとっては、あまりに哀しいことです
31	今以上に制度を広げることについては、慎重に判断していただきたいと思います。本来は、公立の学校で、ほとんど同じ教育サービスを提供すべきであり、特色を強くしすぎると、公立の義務教育からずれてしまう
32	現行のシステムでこの先を進めることは、果たして江別の教育に有益なんでしょうか?前教育長の大きな負の功績として、一刻も早く見直すべきではないか
33	各校の実情、情報をさらにオープンにし競わせる。この前提のもと、学校選択制拡大に賛成する

- 34 事情によって、校区外通学を認める制度を残して、あえて1年次から学校選択制を上段に構えて選択を促させる必要はないのではないかと思います
- 35 目的や意義と保護者が求めていることは、一致しているでしょうか。学校は自校の特色や教育活動状況を改めて見直すよいきっかけとなりますが、部活動の加熱化にはつながりたくないと考えます。そうならないように、あり方をご確認・ご検討ください